

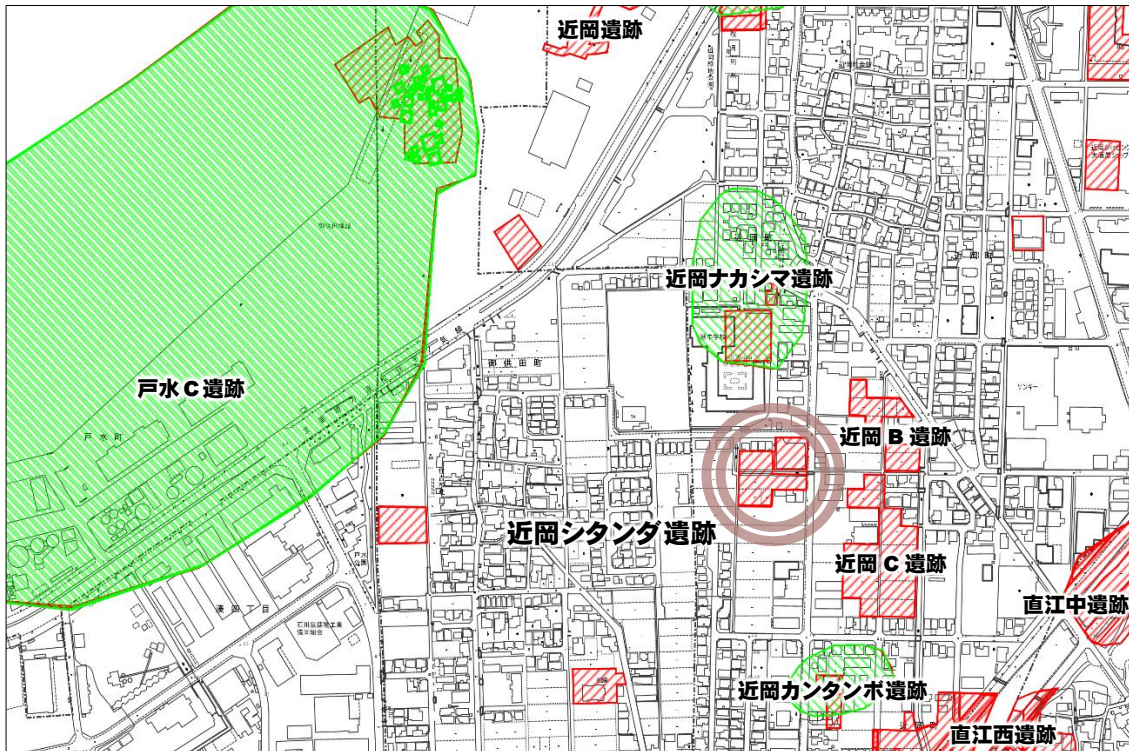
# 近岡シタンダ遺跡現地説明会 資料

令和5年9月2日(土) 金沢市埋蔵文化財センター

## 1. 調査概要

調査原因	土地区画整理事業
調査期間	令和5年7月18日～同年9月上旬(予定)
調査地	金沢市近岡町地内
調査面積	約540㎡

## 2. 周辺の遺跡



近岡シタンダ遺跡と周辺の遺跡

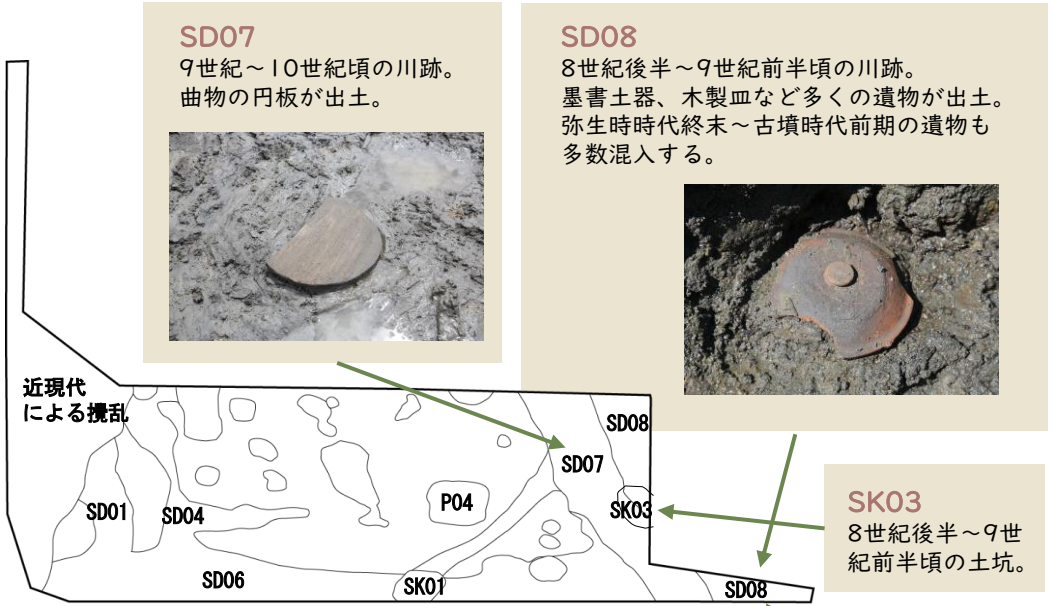
## 3. 発掘調査でみつかった遺構と遺物

近岡シタンダ遺跡の発掘調査では、弥生時代～古墳時代の溝、土坑、奈良・平安時代の溝、土坑、小穴などがみつかっています。建物跡などは見つかっていませんが、1区東側の平安時代の川跡からは生活の様子を伺えるような遺物が多数出土しています。土器、須恵器、石製品のほか、木製品では曲げ物の円板や皿などが出土しました。また、墨で文字が書かれた墨書土器も出土しています。1点は「真」と書かれており、もう1点は欠損しているため判読が難しいですが、「前」と考えられます。

## 4. 発掘調査でわかってきたこと



※調査員鏡の素晴らしいデッサン力による簡略な図です。何卒ご了承ください。



### SD12・SD14・SD15

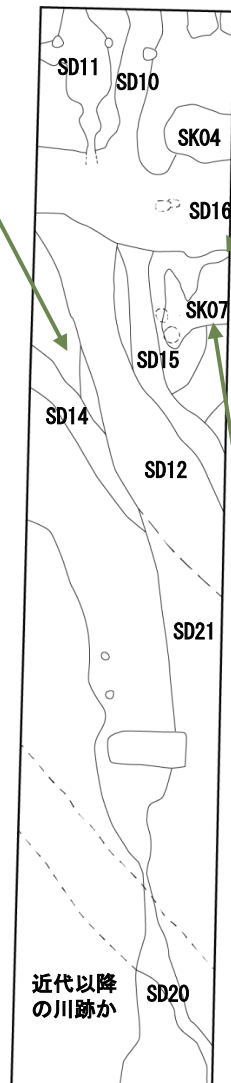
SD15は砂が堆積し、弥生時代終末～古墳時代前期の土器の小片が多く出土する。SD14からは8世紀後半～9世紀前半の須恵器が出土。SD12は2つの溝より時期は新しいが、遺物は少ない。土錘が出土している。



### 墨書土器

「真」人名か。「真縄」「真足」「真田」「真継」「真主」など。「戸水C遺跡、戸水大西遺跡、大友西遺跡、大友E遺跡、金石本町遺跡、上荒屋遺跡」などから出土。

「前」位置を示すか。「前宅」「前院」など。大友E遺跡などから出土。



### SD16 (SK)

大型の土坑。遺物の出土は少ないが、最下層より須恵器片が出土。奈良・平安時代か。



### SK07

弥生時代終末～古墳時代初頭の土器が出土。埋土には小枝や木端などが多く含まれる。



今回の調査では、建物跡など生活に密着するような遺構は見つかりませんでした。集落の中心部は調査区東側もしくは隣接する遺跡に存在し、今回の調査区は集落の縁辺部にあたるものと考えられます。

当遺跡から約150m北側に位置する近岡ナカシマ遺跡では、平安時代の桁行7間×梁行2間の大型掘立柱建物、隅柱縦板組の井戸が見つっています。また、約700m西側には古代の港湾官衙遺跡と考えられている戸水C遺跡、周辺には大友E遺跡などが位置しており、役所のような要所が集中するエリアといえます。

当遺跡の河川跡からは墨書土器（「真」「前カ」）が出土しており、付近に要所となる集落が存在することを示唆しています。

縁辺部ではありますが、戸水C遺跡を中心とする臨海地域の集落群の一端が明らかになったといえます。